

41 寅年、トラ、虎

—信貴山は虎に縁のあるお寺です—

明けましておめでとう。今年は寅(とら)年、祐一君の年ですね。おじさんからの年賀状は寅のお話です。

今から、1400年あまり前、物部氏討伐のために河内へ向かう聖徳太子が、戦勝の祈願をする
と毘沙門天王が出現、必勝の秘法を与えてくださったそうです。



それが寅年、寅の日、寅の刻(こく)、今の信貴山でのことでした。おかげで勝利した太子は、毘沙門天王のお姿を刻み、お寺を創建、信じるべき貴ぶべき山だと、この山を「信貴山」と名付けました。以後、信貴山は虎に縁のある寺として信仰され、境内には大きな張子の虎があり、土産物店にも張子の虎が並んでいます。また、阪神タイガースが必勝祈願をすることでも有名です。

さて、「寅年、寅の日、寅の刻」のように、昔から十二支の子(ね)丑(うし)寅(とら)卯(う)辰(たつ)巳(み)午(うま)未(ひつじ)申(さる)酉(とり)戌(いぬ)亥(ゐ・「ゐ」はワ行の「い」で少し発音が違います)を使って年、日、時刻などを表してきました。時刻からお話しましょうか。

子(ね)の刻は真夜中0時です。丑は午前2時、寅は午前4時です。2時間ごとになっています。では、お昼の12時は何でしょう。そうです。午(うま)の刻です。正しく「午」になったときが正午、それより前が午前、後が午後なのです。

同様に、日にも十二支を当てます。今年の1月1日は亥(み), 2日は子(ね)です。年の場合も同様です。今年が寅年, 来年は卯(う)年です。この十二支の子, 丑, 寅, 卯, 辰, 巳, 午, 未, 申, 酉, 戌, 亥にネズミ, ウシ, トラ, ウサギ…と12種類の動物を順に当てたのです。

十二支には, もう1つの役目があります。それは方角を示すことです。北から右回りに子, 丑, 寅, 卯,

辰, 巳, 午, …を当てていくのです。北は子(ね)です。360度を12等分するので, 子(ね)と丑(うし)の間は30度ですね。4つ目の卯(う)はちょうど90度で東になります。南は午(うま)です。



地図で北極から南極に引いた線, 経度の線を子午線と言います。この意味も分かりますね。北(子)から南(午)に引いた線だから子午線なのです。

北東は丑(うし)と寅(とら)の間, だから「うしとら」の方角です。南東は「たつみ」, 漢字では辰巳・巽です。辰巳さんや巽さんは, 東さんや南さんと同じように方角からきた苗字なのです。姫路城には巽櫓(たつみやぐら)や乾櫓(いぬいやぐら)があります。それぞれどちらの方角にあるのか分かりますね。

信貴山に行っても理科的な展示物はありませんが, 参拝して大きな虎を見ながら昔の時刻や方角の表し方を考えてみてはいかがでしょうか。では, 寅年の今年, トラの元気をいっぱいもらってがんばりましょう。

(平成 22 年 1 月・小学校 5 年の祐一君宛て)

スポットの案内

信貴山朝護孫子寺は近鉄生駒線信貴山下駅から奈良交通バスで「信貴山」下車，すぐです。大阪側からはケーブル線もあります。

理科のワンポイント「今使われている暦」

1日の長さは太陽の動きで分かります。日の出から次の日の出までが1日です。1月の長さはというと月の形の変化です。満月から次の満月までは29.5日です。こうしたことから暦が作られました。日本で江戸時代まで使われてきたのは月の動きと太陽の動きの両方に基づいた太陰太陽暦でした。この暦では季節とのずれが出てくるためにときどき閏月（うるうづき）を作りました。1年を13か月にするので、そのために同じ月を2回繰り返すことにしていました。

明治になって、世界で使われているグレゴリオ暦を使うことにしました。1年は12か月，1か月は30日か31日で2月は28日という暦です。でも、少しずつずれが出てくるので4年に1度，閏年（うるうどし）を作り，その年は2月を29日にします。2012年のように下2ケタが4で割り切れる年が閏年です。それでも少しずつずれてくるので100年に1度閏年にするのをやめます。そのために100で割り切れる年は4で割り切れても閏年にはしません。それでも少しずつずれが出てくるので，400年に1度，やっぱり閏年にします。

こんな年が2000年でした。4で割り切れるから閏年ですが，100で割り切れるから閏年ではない，しかし，400で割り切れるからやっぱり閏年にする。そんなことで閏年になったのが2000年，平成12年でした。今度こんなことになるのは2400年なのです。